

## 2015年の主な出題作品

### 科学・文明

東京女学館	『疑似科学入門』
栄光学園	『海のいのちを守る』
江戸川学園取手	『宇宙論入門—誕生から未来へ』
横浜共立学園	『科学者が人間であること』

### 文化・習慣

桐光学園	『梅干と日本刀』
武蔵	『和の思想—異質のものを共存させる力』
國學院久我山	『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』
浦和明の星女子	『食べるって何?—食育の原点』
鷗友学園女子	『僕らが世界に出る理由』

### 文芸論

渋谷教育学園幕張	『千利休 無言の前衛』
高輪	『街場のマンガ論』
雙葉	『感動をつくれますか?』
市川	『建築史的モンダイ』

### コミュニケーション論

城北	『じぶんリセット。』
富士見	『コミュニケーション力』
筑波大附属	『「サル化」する人間社会』
栄東	『叱られる力』
淑徳与野	『つながりを煽られる子どもたち』

### 哲学・博物学

開成	『大事なものは見えにくい』
フェリス学院	『独学のすすめ』
本郷	『あたらしい哲学入門—なぜ人間は八本足か?』
専修大松戸	『弱者の戦略』

頻出5ジャンル  
だけはおさえよう

# 説明文が わかるようになる本

中学受験において、約半数の学校で出題される国語の説明文。

難解な問題を読めるようになる入門書や

テーマごとの出題パターンを伺った。

ぜひ夏までに各テーマ1冊は読んでほしい。

# 50

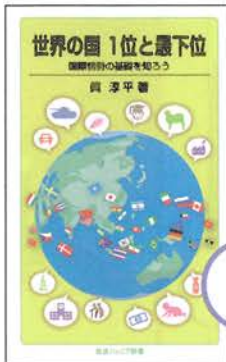
こ数年、論理的思考力を高める目的で、説明文を出題する学校が増えている。さらに、説明文は新書レベルのものも出題されるため、子供にも読みやすい題材が多い物語文の問題に比べ、難易度が高い。読み慣れていないと大きな差がついてしまう。

「国語は学校側の『求める生徒像』の現れです。難解な長文は入学してからハイレベルな授業についていくガッツがあるか、科学論や文芸論など多岐にわたる文章を読ませるのは、知的好奇心をもって学習に取り組む意欲があるかを確認しているのです」(中学受験鉄人会・貝塚正輝氏)

また、物語文と異なる点について貝塚氏は次のように語る。「説明文は前提となる知識がないと、解けません。『環境問題』をテーマにした長文を前にしたとき、『地球温暖化』や『生物多様性』といった知識がなければ太刀打ちできません。本来、説明文の学習は『定説』や『知識』を身につけることから始めなければいけないのですが、塾ではその部分の学習支援が不十分です。家庭で各テーマの知識を身につければ、成績が一気に伸びるはず。説明文の頻出ジャンルは大きく分けて5つ。

# 文化・習慣

日本文化と異文化の違い



必読

世界の国  
1位と最下位

- 岩波書店
- 眞 淳平



入門

食を考える

- 福音館書店
- 佐藤洋一郎



入門

和の思想

- 中央公論新社
- 長谷川 權



必読

木の教え

- 筑摩書房
- 塩野米松

# 科学・文明

身近な話題から、原発問題まで



必読

ガラスの  
地球を救え

- 光文社
- 手塚治虫



必読

科学の扉を  
ノックする

- 集英社
- 小川洋子



発展

生態系を蘇らせる

- NHK出版
- 鷲谷いづみ



入門

科学の考え方・  
学び方

- 岩波書店
- 池内了

“当たり前”を考え直してみよう

入門	寝ながら学べる構造主義 ● 文藝春秋 ● 内田 樹
必読	おしゃべりの思想 ● 筑摩書房 ● 外山滋比古
発展	梅干と日本刀 日本人の知恵と独創の歴史 ● 祥伝社 ● 樋口清之
発展	野生哲学 アメリカ・インディアンに学ぶ ● 講談社 ● 菅啓次郎、小池桂一
	美しいをさがす旅にでよう ● 白水社 ● 田中真知
	日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか ● 講談社 ● 内山 節

身の周りで起きているテーマから読もう

必読	インターネット的 ● PHP研究所 ● 糸井重里
必読	おはようからおやすみまでの科学 ● 筑摩書房 ● 佐倉 統・古田ゆかり
発展	科学者が人間であること ● 岩波書店 ● 中村桂子
	ご当地電力ははじめました! ● 岩波書店 ● 高橋真樹
	日本人のための科学論 ● PHP研究所 ● 毛利 衛
	科学的とはどういう意味か ● 幻冬舎 ● 森 博嗣

子供が興味を持つものから始めて、各ジャンル1冊は読んでほしいですね。6年生の夏休みまでの期間が、説明文の基礎力を鍛える最後のチャンスです」

では、具体的な出題傾向を見ていこう。5つの出題ジャンルを、子供が読みやすい順に並べると、「科学・文明」「文化・習慣」「コミュニケーション論」「文芸論」、そして哲学や思想を含む「哲学・博物学」となる。

平山入試研究所所長の小泉浩明氏はこう分析する。

「子供には具体性のある題材が、とっつきやすい。中でも一番読みやすいのが、『博物学』や『科学・文明』です。理科的な要素を含む『生物多様性』、地球温暖化などの『環境問題』といった身近な問題から、社会のあり方、文明のあり方を問うものまで実社会との接点が多いのが特徴です。学校での学習や他教科で触れる話題も多く、子供にとっては理解がしやすい」

次に取り組みやすいのが、「文化・習慣」だ。『日本の自然観と西洋的な自然観の違い』といった問いが投げかけられる。「文化・習慣」のジャンルでは、日本と他国を比較するなど、異文化との比較ものが多い。たと

# 文芸論

文学、絵画、音楽の評論



入門

わたしが芸術について語るなら

- ポプラ社
- 千住博



発展

今日の芸術

- 光文社
- 岡本太郎



入門

ムーミン谷のひみつ

- 筑摩書房
- 富原真弓



必読

絵のある人生

- 岩波書店
- 安野光雅

# コミュニケーション論

言葉や社会との接し方



入門

「サル化」する人間社会

- 集英社
- 山極寿一



思考の整理学

- 筑摩書房
- 外山滋比古



必読

コミュニケーションの日本語

- 岩波書店
- 森山卓郎



ことばの発達の謎を解く

- 筑摩書房
- 今井むつみ

"美"の裏側にある考え方を知ろう	
入門	日本のデザイン—美意識がつくる未来 ●岩波書店 ●原 研哉
必読	子どもの本を読む ●岩波書店 ●河合隼雄
発展	古典を読んでみましょう ●筑摩書房 ●橋本 治
発展	ルノワールは無邪気に微笑む ●朝日新聞出版 ●千住 博
発展	未来の読書術 ●筑摩書房 ●石原千秋
現代世界の十大小説 ●NHK出版 ●池澤夏樹	

日本語の仕組みを意識しよう	
入門	先生はえらい ●筑摩書房 ●内田 樹
必読	ふしぎなことば ことばのふしぎ ●筑摩書房 ●池上嘉彦
必読	友だち幻想—人と人の“つながり”を考える ●筑摩書房 ●菅野 仁
発展	臨床のことば ●朝日新聞出版 ●河合隼雄 ●鷲田清一
わかりあえないことから ●講談社 ●平田オリザ	
日本語の表と裏 ●新潮社 ●森本哲郎	

「次」に「コミュニケーション」がテーマの説明文。

「言葉の特徴」や「コミュニケーション」における言葉の役割」といったテーマが話題される。

「言葉で伝えることの難しさ」若者のコミュニケーション能力の低下」などがテーマになることも多い。

「言葉の語源や言葉の面白さのようなくだけたエッセー風の内容から、言語学者による論考まで、幅広く出題されます。」

「や」文化」のように目に見えるものがテーマではないので、子供によっては苦手意識を持つかもしれません」(貞塚氏)

「文芸論」は、絵画や映画など芸術に関する内容で、やはり子供にとっては未知の領域に近い。

えば、日本では「私」「僕」「俺」と一人称の種類が豊富ですが、欧米では「I」など一種類という場合がほとんどです。こうした言語的特徴からも、日本では「個人が社会の中に緩やかに含まれている」、欧米では「個人と社会が対立している」という社会構造が見えてきます。この「日本人と欧米人の違い」日本文化の特徴」など、ところどころ子供が理解しにくい箇所もありますので、親が事例を挙げて丁寧に説明しましょう」

**Q** 読書嫌いのわが子を どう取り組ませる？

興味を持ちそうな分野から読ませましょう。そもそも出題される説明文は大人向けに書かれたものが多く、難解です。まずは虫や動物、植物など、子供が興味を持っているテーマの本を読ませることで、少

しずつ“本を読める”子にしていきましょう。まずは急かさず、子供のペースで読ませることも大事。読み慣れてくれば自然とペースも上がるので、焦りは禁物です。(貝塚氏)

**Q** 集中力がなく、最後まで読み通せない。

知らない語彙が多く、テーマが難しければ、説明文を読み慣れない子供が投げ出したくなっても当然です。慣れないうちは時間を設定せず、親子で輪読するなど、1章程度の短い区切りでゆっくり、じっ

くり読みしましょう。実際の問題を解くときは、冒頭5行でテーマがつかめるかが結果を左右します。焦って「何の話なのか」がわからないまま読むのではなく、ゆっくり丁寧に読みましょう。(小泉氏)

**Q** 4・5年生のうちに やっておくことは？

子供を“本好き”にするために、まずは親が楽しそうに読書をする姿を見せてください。そして、「ためになるから」ではなく、「面白いから」と本をすすめてみましょう。親と同じ本を読むという“少し背仲

びをする”行為は、子供心を刺激します。本屋や図書館に連れていき、好きな本を何でも読ませることも有効です。本が常に手元にある環境は、苦手意識も払拭します。(貝塚氏)

**Q** 来年以降、出題が 増えそうなジャンルは？

「哲学」が題材の出題が増えていくでしょう。2020年から新大学入試制度の仕組みが大きく変化し、センター試験に変わる新試験は、思考や判断など“知識の活用力”が試される内容になるとされています。

このことから、中学入試でも、これまで以上に論理的思考力が求められる説明文の出題が増えていくと予想されます。子供には読みにくいジャンルですが、少しずつ慣れさせていきましょう。(小泉氏)

「わからぬことになり、どう面白かったか」を説明すると、「どういう言い方をすれば伝わるのか」を知ることになり、記述の対策にもなります(貝塚氏)

哲学・博物学 生きていく中での、ものの見方



身近な雑草の 愉快的な生きかた ● 筑摩書房 ● 稲垣栄洋



なつかしい 時間 ● 岩波書店 ● 長田弘



12歳からの 現代思想 ● 筑摩書房 ● 岡本裕一朗



動物を守りたい君へ ● 岩波書店 ● 高槻成紀

世界の見方を見つめ直そう

必読	さとやまー生物多様性と生態系模様 ● 岩波書店 ● 鷲谷いつみ
必読	生態系は誰のため? ● 筑摩書房 ● 花里孝幸
必読	農は過去と未来を繋ぐ 田んぼから考えたこと ● 岩波書店 ● 宇根豊
発展	14歳からの哲学 ● トランスビュー ● 池田晶子
発展	はじめて考えるときのように ● PHP研究所 ● 野矢茂樹
世界を、こんなふうに見てごらん ● 集英社 ● 日高敏隆	

貝塚氏は、「説明文は語彙もテーマも難しいので、文章の内容を『知識として知っているか』という点が得点を大きく左右します。しかし、大人が読んで難しい内容をただ『読んでおけ』と渡すのはあまりにも乱暴です」と語る。

初めは子供に説明文を読ませ、その難しさに慣れさせることだ。苦手意識を持たせないよう、子供の興味に近いジャンルの本から読ませること。そして、「どこが面白かった?」と感想を聞くのがおすすめだ。

「これから中学受験する世代が大学受験をする頃には、受験制度が大きく変わっています。本質的な思考力を問う哲学系の説明文の出題は、今後増えていくと考えられます」(小泉氏)

「和歌とは何か」といった特定の芸術についての説明や「芸術をどうとらえるべきか」といった出題もされやすい。

そして最後は一番の難関「哲学・博物学」だが、哲学や思想に関するテーマは今後増えていくと考えられている。